

### シクラメンが届きました

12月6日(月)に、東京農業大学農学部伊勢原農場から、みごとなシクラメンの鉢をプレゼントしていただきました。本校では昨年度、そして今年度、2年生が訪問し、果樹などの勉強をしています。今秋の訪問では、苗を育てている温室も見学したのですが、子どもたちは覚えているでしょうか。

明るいシクラメンの花が、子どもたちをやさしく見守っています。



東京農業大学伊勢原農場：<https://www.nodai.ac.jp/campus/facilities/farm/isehara/>

### 富士農場へ

12月9日(木)、3年1組は、校外学習のために東京農業大学農学部富士農場(静岡県富士宮市)に行きました。素晴らしい好天に恵まれ、雪に覆われた富士山の山頂からすそ野までがくっきり見えます。

農場の皆さんに温かく迎えられ、まずは持参のお弁当で昼食です。農場のゆで卵と牛乳も提供していただきましたが、特に牛乳は大好評。搾りたての牛乳のおいしさがわかるらしく、お替りをする子どもが続出しました。

農場では、鶏、豚、牛の学習をしました。最初は、心卵器の卵にライトの光を当て血管が形成されている様子を観察し、次に、ケージの卵を一人ひとつずつ集めました。さらに、集めた卵を洗卵機のベルトコンベアーに載せ、卵がきれいに洗われていく様子を驚きをもって見ました。豚

舎では、赤ちゃん豚、お母さん豚、牛舎でもいろいろな牛を観察し、農学部准教授野口龍生先生にわかりやすい説明をしていただきました。子どもたちからは、「耳が立っている豚と立っていない豚がいるのはなぜですか。中の骨が違うのですか?」「一日に何グラムくらい体重が増えますか?」「豚は土を掘る性質があるのに、飼育するときは掘らせない方がいいのはなぜですか?」など、様々な質問が出ましたが、野口先生に一つ一つ丁寧に答えていただきました。もうすぐ赤ちゃんを産むという母牛もいましたが、「今日、生まれればよかったのに」「来週2組が来るときは赤ちゃんが生まれているかもしれないね」と盛り上がります。母牛のお腹の右側に赤ちゃんが、左側は巨大な胃があるなど、引率教員にも学びのあった日でした。

サイレージの酸っぱい匂いを嗅いだり、牛にそっと触ったり、広々とした牧草地を楽しんだりした後、最後には牧草地から牛舎へ自ら歩いて戻る牛たちの様子も見ました。もっともっと富士農場にいたい! という子どもたちでしたが、夕方6時過ぎには無事に学校に戻り、お迎えの保護者とともに帰宅しました。16日(木)には、3年2組が、農場の皆様にも再度お世話になります。

東京農業大学富士農場：<https://www.nodai.ac.jp/campus/facilities/farm/fuji/>



東京農業大学富士農場(東京農大HPから)

## 第一回入学者説明会

12月11日(土)に、農大稲花小において、第一回入学者説明会が行われました。2022年度入学試験の難関を乗り越えて合格した児童72名と保護者が初めてそろう日でもありました。校長からは、合格へのお祝い、72名の児童とその保護者同士、また保護者と教職員も、お互いに親しく、かつ、礼儀正しく、長いお付き合いをしていきたいこと、入学後も登下校の安全や様々な生活習慣については保護者の役割が大きいこと、児童が小さい間はやさしく見守り、だんだんに手を放すことの大切さなどについて講話をしました。教頭からは、入学前に理解が必要な本校のルールや給食について、養護教諭からは学校保健について、そして最後はアフタースクールについての説明がありました。

続けて、制服の採寸や文房具の購入、アフタースクールの相談会が行われました。本校の制服を着た姿を思い浮かべると、入学式への期待が膨らみます。在校生も、新入生と出会える日を楽しみにしていることでしょう。

## 成長を喜ぶ

2学期も間もなく終わります。テストやノートを見ると、字の書き方もしっかりと、文章も整ってきた子どもたちが増えているのはうれしいことです。常々、保護者にもお伝えしていることですが、学校での学習をきちんと身につけることが、学力を伸ばす一番の方法です。先取り学習をしたり、あれやこれやと問題集などに手をつけたりすると、筋道だった学習ができず、勉強時間が長くなる割には効果がないことになりがちです。家庭での振り返り学習により、理解の不十分なところを残さないようにするとともに、計算など習熟が必要なものについては練習をして力をつけてほしいものです。同時に、答えを素早く出すことだけでなく、なぜなのか、どうしてなのかを考える力はますます大切になります。ご家庭でも、様々なトピックスについて、なぜ、どうして、と一緒に考える習慣を続けていただくようお願いいたします。

校長 夏秋 啓子